

# 飾<sup>しき</sup>梅<sup>うめ</sup>分教会

設立・平成18年12月26日

祭典日・16日

大阪府羽曳野市



初代会長  
津村 嘉子

平成十八年十二月二十六日

初代会長 津村嘉子 任命

大阪府近郊の羽曳野市で、「真理教」という新興宗教の一つがあり、主として墨色判断とか靈感などによって宗教活動を行っていた。ところが、その教祖が亡くなり、これからどうすればよいか、と

教祖の娘や役員達が途方にくれ、いろんな宗教や信仰を参考にしたいと京阪神の有名な寺院や神社などへも見学をして訪ねている。また、様々な宗教家とも会っていた。

そんな時、飾大のあるよふぼくが「一度飾大の会長さんに会って話しを聞



教会の外観

かれたらどうか」とにをいがけをした。教祖の娘である津村嘉子と、七十歳前後の男性の役員と二人の婦人が、平成七年六月のある日、飾大分教会を訪ね、竹川俊治会長と話し合うことになった。開口一番、男の役員が竹川会長に「信仰とは一体何でしょうか」と尋ねた。「一口に、信仰について語ることもできないが、それよりも信仰について一緒に勉強しませんか」と、竹川会長。

「それは有難いが、どうして信仰について勉強すればよいか」と、役員。

竹川会長の提案により、毎月三回、津村宅で「勉強会」を開き、真理教の主だった信者や、奈良県御所市で腰痛などを治療する元天理教の布教師の所へ行っていた津村利子嘉子の知人の人々も、この勉強会に参加して、共に信仰について語り合うことが、その場で決定した。更に竹川会長の提案により、『おふでさき』を拝読しながら『おふでさき』をテキストにして勉強会を毎夜七時から十時過ぎまで実施した。毎回熱のこもった信仰論議が交わされたのである。特に津村嘉子は竹川会長から「人を助けて我が身助かる。助ける理で助かる」という教えを徹底的に仕込まれた。お道の信仰と、信仰の道の方向性を与えていただいたと思っただ、と言う。

勉強会が始まって三ヶ月程経って、津村嘉子とこの勉強会に参加していた九人が別席を運び、一年後には津村嘉子は四男と共に修養科を修了した。次いで飾梅

布教所を津村宅で開設。布教所長には津村嘉子となり、勉強会は約三年で『おふでさき』を終え『みかぐらうた』も完了。もちろん、布教所の月次祭も多数の参拝者で賑わった。

津村嘉子は大きな青果店を経営する夫と結婚し、夫の両親にもよく仕えていたが、平成二年に夫が出直した後、その店を営み五人の男児を育てた。



参拝場内

みにより、にをいがけ・おたすけに奔走し、大阪教区の布教師の集いである『若道会』においても熱心につとめ、次男やまたそのメンバーと共に大阪府下のあちこちで布教するようになった。

嘉子の次男は父が亡くなってから母に

津村

嘉子は

飾大に

日参す

るかた

わら、

飾大の

竹川会

長から

の仕込

も告げず家出をしていたが、数年経った頃、今は群馬県に居るらしいとの次男の友人からの話を竹川会長に伝えると「探しに行こう」とその翌日、嘉子は竹川会長と共に群馬県へ初めて行った。竹川会長も初めての群馬県であったが、教祖の不思議なおはたらきをいただき、その日の夜十時過ぎ、次男を見事に捜し当てた。竹川会長から、大阪へ帰り修養科に入るよう言われた次男は、一週間後に母の元に帰り、直ちに修養科へ。修養科修了後そのまま二ヶ月ひのきしん、そして検定講習前期を終え、飾大分教会で青年づとめ。布教の家徳島寮一年、台湾の飾大豊原布教所（当時）に他の青年と共に一年間住み込み、布教実習。帰国後、母の良き手足となって道一条で勤めている。

飾梅布教所の道も次第に進展し、飾大分教会長また前会長より教会設立の話しがあり、何でもどうでも神一条、道一条の精神定めをするよう厳しく仕込まれ、教祖百二十年祭の旬の立教一六九（平成十八）年十二月二十六日、飾梅分教会設立のお許しを戴き、津村嘉子は初代会長としての任命をいただいた。

それに先立ち、新しく神殿建築、及び教職舎建築のご守護もいただき、自宅の土地建物もすべて親神様にお供えするという精神定めによって、初席を運ばせていただいてから丸九年にして、津村嘉子会長の誕生となったのである。

まさに、をや（親神様、教祖）の自由用のおはたらきを、まざまざと見せていただき、津村嘉子も次男もその御恩に報いんものと日夜おたすけ、布教に励ませていただいている。

尚、当教会は日加佐分教会を事情復興した教会である。

日加佐分教会は大正十四年四月十日山本八十二を初代会長として設立されたが、事情により辞職の後、昭和十一年二月三日森尾周市が二代会長を拜命した。二代会長出直しにより昭和四十六年十一月森尾喜久恵が三代会長に就任した。昭和五十九年八月三代会長出直しにより、昭和六十年十一月二十六日松尾正治が四代会長に就任した後、平成五年十月二十六日松尾昭枝が五代会長に就任した。その後事情により移転、改称、所属変更をしたものである。